



92年 7月25日

No. 94

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒171 豊島区

郵便振替口座

FAX

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可
 SSKA通巻一九四八号（毎月六回）の日六の日
 一九九二年六月二十六日発行



都電荒川線・町屋駅前（写真・本間正良）

●おまな記事●

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ○主婦と透析..... 3 | ○全腎協総会報告.....14 |
| ○スタッフ訪問・柴田猛さん..... 6 | ○私のふるさと②竹田文夫さん.....17 |
| ○青年部の活動..... 9 | ○20周年記念事業.....22 |
| ○会員さん訪問（46）酒詰孝子さん.....12 | ○体験の5分間クッキング.....23 |

一九八八年(昭和六十三年)八月四日朝の七時頃であった。突然胸が苦しみ、同時に凄く痛く、どうにも我慢が出来なかった。

時間前だが羅りつけの医者へ自転車で駆けつけた。医者は病状を聞き「大変だ、直ぐ紹介状を書くから大学病院へ行きなさい」と言われ病院へ向かう。大学の先生は長沢教授(当時は何も知らなかったが腎臓病専門の大家であった)容態を聞き診断が終ると直ちに入院即透析導入となった。

考えて見ると前から透析については若干の知識があつて、クレアチニンが八四/ℓ位になったら透析をしなければならぬと言われていたが、五月頃の血液検査では五と記憶している。それが何故急にも思つたりしたが、その頃は腎臓病についてはそれ以外全く無知で、身体障害者診断書を見てクレアチニン三三・三、尿素窒素百十九・五、K六・八、P七・六、Ht十六・七%と記入されていた。

今にしてみればKの値が高くなりすぎてもう少し処置が遅れたら命取りになったとのこと。一週間後にシャントを作ることになるが、手術衣を着せられ手術

リレー・エッセイ

第二の人生は透析で

常任幹事 川島 桂輔



室へ入った時は矢鱈恐ろしくて体が震えた(何しろ手術なんて生まれて初めてなので)。二カ月後に退院し今日に至つては、退院時に主治医より水分だけは呉々も気を付ける様に言われて、今でも自己管理はきちんとして行っている心算である。

透析を始めて今年八月で四年になるが私の人生感が変わって来た様に思う。それは身体障害者に対する思考で健常者の時は身体障害者への認識は先ず持っていなかったが、今では之等に関する記事報道に関心を持つ様になり感激したり、感銘をうけたりしている。同じ境遇からの共感であろう。

又、私の第二の人生は会社を定年退職し、自分の趣味を生かしながら苦勞をかけた妻と長旅をしたがらのんびりしたいと願つていたが、今は儘ならない様だ。しかし、物は考えようで会社へ通勤していると思えば何等苦にならないし、而も半日ベッドに横になつていれば良い。友達も老若男女沢山出来た。之も透析から生じた予期しなかった人々との関りである。従つて私の第二の人生は透析により今迄にない経験をしたり、之れから

もすることと思つている。

今年で七十歳になったが、お蔭様で体調は良い方で此の間も旧友から久しぶりの電話で前前の声の大きいうちはまだまだ大丈夫と言われ意を強くした次第である。

緑あつて東腎協の運動に携わるようになったが、役員先輩の方達は透析歴十年以上が多く、而も元気で患者運動に心血を注いでいる姿勢には頭が下がる思いである。私も色々な角度より勉強しているが未だ難しいことが沢山あつてなかなか頭に入らない。でも頭を使う事によって老人ボケには先ずなるまい。

今しきりにインフォームドコンセント(説明と同意)ということが言われているが、透析者の宿命として長い問病院の先生、看護婦さんのお世話になるのだから之れには良き人間関係が望まれる。

今、私は東腎協を通じて同じ立場にある友達と共通の問題に取組み先輩諸氏が営々として勝ちとつてきた良き条件を継承し心をつつにして邁進すれば必ず明るい未来が展げることを確信して、之れからも体調を維持し前向きに患者運動に努力して行く所存である。

特集

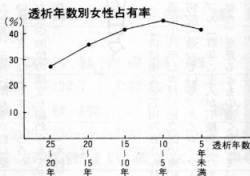
主婦と透析

かつて主婦が透析出来ない時代があった。そして、今、透析機器の発達、透析医療費無料化の実現などにより、いつでも、だれでも透析にかかれるようになり、活発な主婦の姿がある。しかし、また、あの暗黒の時代に引き戻そうとする力がある。

古いとえて恐縮だが、戦後、靴下と女性は強くなったと言われるが、本当にそうだろうか。確かに、靴下はナイロンが発明されたので、丈夫になったであろうが、女性に関してはうなずけ、強くなるがある。健康であれば、強く生きることも可能ではあるが。

ひとたび、健康を害したとき、女性はまことに弱いものである。二十年前には、傷ましい事例が多く見られた。透析のような高額な、そして、長期にわたる治療を必要とする状態に陥ったとき、独身で子供もいない、一家の家計を担っているわけでもない女性は透析

そのもにかかる条件が弱いとされていた、主婦は健康保険の家族で



あったので、当時は、五割負担であったため透析に導入してもらえないのは、本当に、恵まれた人か、たまたま共働きの保険本人であった人に限られていた。

一九九〇年末の日本透析療法学会の調査によるときの時点での、二十年以上二十五年未満の透析患者数は二四二人であるが、女性はその二八・五％にしか過ぎなかったのである。十五年以上二十年未満になると、三五・五％と少し率は上がっている。

患者会の活動などでは東腎協の場合、多くの女性が参加しているので透析患者全体に対しての比率がこのように低いことには意識が向かないと思われる。しかし、病気がよって男性が困難な状況に陥っているときには、女性はもつと苦しんでいるということに、思い

かつて女性はわずかしか透析にかかれなかった

を起こしてはいいものである。

運よく、透析を受けられ命永らえることができても、女性の大多数である主婦は家事労働に従事しながら透析という負担を背負っているの程度差はあっても、それぞれがきつて生活を送っていると思われ。男性の多くもまた生活の質を得るために毎日、働かねばならない。一人暮らしの人は男女を問わず、食事を作らなければならぬが、主婦の家事には、よほど、理解のある伴侶でないかかぎり、一年中、休みはというものが無いのである。

透析に行っても、埃は出るし、洗濯物はたまる。家族に自分以外の病人が出て、それが慢性病なら、介護は主婦にかぶさってくる。高齢化の悩みも押し寄せてくる。そして、主婦パートにせよ働いているならば、社会的責任も生じてくるので、そのハンディは二倍にも三倍にもなるのではないだろうか。

一般社会では女性の平均寿命は伸びたと騒いでいるが、透析患者の女性も導入されてからは、あまり、無節制はしないので、長く生きられるかもしれない。しかし、

入り口のところで男性と差をつけられていることは女性の立場が、まだまだ弱いということを証明しているのではないだろうか。

現在は、透析も予後が良好で主婦は主婦としての仕事を果たすことができるので、悲しいできごと

忙しい主婦透析者の日々

主婦透析者の生活は忙しい。これは、透析の人たち全体にも言えることだが、健康者並に仕事をこなすときは、透析に時間をとられるため、猛烈に忙しくなる。

も、あまり起こらないですむが、なにも仕事ができない状態になったとき、主婦に限らず女性は悲しい思いをしなくてはむだらうか。女性の地位の確立を願わざるをえない。

(木村)

ここに登場する石川みささんは透析十八年七月、足立区の東和病院へ通っている。タイム・テーブル(昨年ご主人が脑梗塞でたおれた)を見るときも凄く動いてい



昼透析を終え夕食の準備をする石川さん

るようだが、主婦の透析者に聞くとはほとんど同じような行動をとっている。石川さんは以前は三軒茶屋病院(世田谷)へ通っていて、通院に片道一時間半もかかっていた、四時半に起きていた。

この表には載りきれなかったが、毎日、新聞を見ていて、テレビは見ても見なくても家にいるときは、ずっとかけているそう이다。このようにめいっばい動くことは、二十年前には考えられなかったことだ。透析にかかると大変だったが、それ以上に生きぬくことが大変だった。やっと家に帰る食事の準備もままならず、主婦の仕事はとても無理だった。

石川さんは東腎協十年誌「あゆみ」のなかで当時の状況をこう語っている。「私は入院が三年近くと長く、土、日の外泊だけで、自

分の気持ちが大んだん落ち込んでいくんですよ。それでも、とにかくできるかできないか退院してやってみようということで、四時半におきる生活を覚悟して、やればできるんですよ……」

「その頃は、こんなに長く生きられるとは思わなかったし、三年ぐらいだと言われたのが三年入院しちゃったでしよう。あと何カ月生きられるかわからないのに、旅行ひとつ行かないで、家のこともできないで終っちゃうのはいやだなと、がんばってみたくてすけれども、やればなんとかなるんですよ」

このように自分自身のがんばりと、透析医療技術の進歩、社会保障の充実などで石川さんの今日がある。当時(十八年前)では考えられなかった生活であるう。

今、女性が患者運動の中心に

最近の東腎協活動への参加者を見ると、女性、とりわけ主婦の元氣な姿が目だってきている。幹事会などでは、以前は女性の参加者はわずかだったが、ここ数年増えてきている。

交流会には参加者の半数以上が女性ということも多く、ゲーム、のど自慢など主婦の人たちが中心で盛り上げている。

「これからの運動には女性の参加を」と全腎協の小林事務局長も

石川みささんの一週間 (6月1日～7日)

1	5:30	6:30	7	12(お昼)	3	5-6-6:40	7:10	8(夕食)	11				
MON	起床、主人弁当	朝食	洗濯	豆を煮ながら	掃除押し入れの整理	洗濯	テレビ、休憩	お使い	おフロ、夕食の支度	ふきを磨る	読書		
2	5:40	6:40	7	7:40	通所	34	7:スレット片付け、掃除	6	8(夕食)	11		
TUE	起床、主人弁当	朝食	かたづけ	病院へ、アースレットをたく		帰宅、休憩、テレビ	洗濯をしながら		おつかい		読書		
3	6:10(数週ぶる)	6:50	7	8:10	6:15	7:25	7:50	8:30(夕食)	10:30			
WED	起床、2人分の弁当	朝食	片付け、掃除	出勤	実習室	今日は忙しかった	帰宅、夕食支度	フロ			読書		
4	5:20	6:00	7	7:30	病院へ	通所	36	6:30	8:30(夕食)	11		
THU	起床、主人弁当	朝食(主人仕事の途中重医者に行くので早い)	洗濯や	帰宅	疲れて横に	お使い、夕食支度	洗濯物の整理	会費整理			読書		
5	5:30			8:10	5:20	6:45		8:30(夕食)	10:30			
FRI	起床、2人分の弁当	朝食	片付け、掃除	出勤	実習室		帰宅、夕食支度	フロ掃除	テレビ		読書		
6	5:30	6:30	7	7:40	病院へ	通所	1	1:203	4	5:30	8:30(夕食)	11
SAT	起床、主人弁当	朝食	片付け		通所終了	井口さん入院入会を進める	休憩	お使い、洗濯	夕食支度		読書		
7	5:30-6:30	8-8:30	10	10:30	11:15	5	5:15-5:50	7	7:50	米磨ぎも	10:40	
SAN	起床	朝市、洗濯、朝食の支度	朝食	掃除、植木に水	おフロ	習仲へ、常任幹事会	喫茶店	主人と焼肉や	帰宅	テレビ、新聞	読書		



多摩部バスハイク・元気な主婦たち

医療法改正で新たな波が

全腎協機関誌No一〇〇(一九九〇年一月発行)クロームアップで呼び掛けていたが、東腎協の発展に

も女性、とりわけ主婦の人たちの活躍に負うところが大きい。

今、私たちの周りでは主婦の人たちが忙しく、また、活発に透析生活を送っている姿が見られる。今年六月の医療法改正で透析患者は①医療サービスの低下②診療

所では入院出来なくなる③医療従事者の不足④診療報酬の合理化(マルメの推進)⑤合併症患者らの長期入院が困難に⑥保険外負担の強化(保険外負担は公費医療の対象外)などの影響が心配されている。

また、今後さらなる医療法改正も予想されている。かつての主婦の人たちのように透析にかかれぬ時代がせつたいに来ないとは言えない。すでに他県では透析台数の不足という話も出てきている。今後、私たちはかつての暗黒の時代に反らないように運動を続けていかなければならない。この運動にもきつと主婦の人たちが中心になってがんばるだろう。(草間)

スタッフ訪問

—よりよい透析を求めて—

「スタッフ訪問」第三回は、虎の門病院分院臨床工学技士・柴田猛さんを訪ね、近年めまぐるしく進歩した透析技術、臨床工学技士から見た医療現場での問題点、今後の透析治療などについてお話を聞きました(金子)。

いかに育てていくか 新しい資格制度

◆最初に「臨床工学技士」という新しい国家資格制度ができましたが、資格ができる前とできた後の変化についてお話を聞かせて下さい。

柴田 やはり資格ができたことで一番感じたことは、患者さんからの信頼度が違うことです。それから医療職としての身分が確立され、医療スタッフの一員としてチーム医療が行いやすくなりました。

しかし、日常の勤務では、資格より人間性の方が重要のように思っています。やっていいこととできることは違いますが、資格を取得すれば何をやってもいいという訳ではありません。患者さんと医療スタッフはお互いに尊重しあって透析治療を続けていかなければなりません。

たとえば、最近インホーム・コンセンストが話題になっていますが、現在のような情報化社会では、



虎の門病院分院

臨床工学技士

柴田 猛

さん

患者さんも自分の病気についてすでに多くのことを知っていますし、知る権利があると思います。医療スタッフは、十分な治療効果を上げるために患者さんが理解できるように治療目的をわかりやすく説明しなければなりません。しかし、すべてを話せば良いというものではなく、治療に必要な点について説明するなど一定の節度が必要だと思っています。そして、最終的な決定については医療スタッフの指示に従って欲しいと思います。そこにはやはりお互いに尊重しあい、信頼できる関係がなければなりません。

◆資格制度ができたにも関わらず、国公立病院ではほとんど臨床工学技士が採用されていないことについてどのようにお考えですか。
柴田 確かに臨床工学技士では採用されています。これは、「医

療法上」で「臨床工学技士を置くことができる」となっているだけで、採用するかどうかは施設の自由裁量に任されているからです。それに、資格ができてまだ新しいため、臨床工学技士の役割が広く認識されていないこと、公務員の定員枠の関係から臨床工学技士を採用するとなると、他の職種を削減する必要があるわけですから、なかなか難しい問題があるわけです。これからみんなで努力し、医療の現場で必要とされる職種に育て上げていかなければならないと考えています。

また、国家試験の経過措置も今年度で終わります。厚生省では経過措置の延長は行わないと言っていますが、資格を取得できていない人のために、議員立法の手段に訴えて経過措置の延長の要求も行っていききたいと思っています。

◆針刺についてはどのようにお考えですか。

柴田 患者さんにとってシヤントはとても大切なもので、シヤントを長持ちさせるには、むしろ針刺専門のスタッフがいても良いのではないかと考えています。

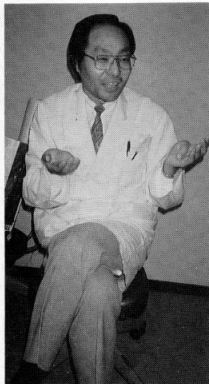
現状としては、医師、看護婦、

色々な症状、合併症

高度な治療技術を求めて

◆近年、糖尿病からの透析導入、透析患者の高齢化による障害の重度化重複化などの患者さんが増えています。どのような対応をされていますか。

柴田 医療はサビですが、病



臨床工学技士の誰が針を刺すかが問題ではなく、技術とセンスがあつて上手に刺せる人が行えば良いのではないのでしょうか。ただし、誰でも最初から上手に針刺ができる訳ではありません。患者さんにもこのことを理解して欲しいと思います。

院の経営のことだけを考えたと合併症のない患者さんだけを受け入れれば、手間もかからず病院経営も合理化ができると思います。

しかし、医療側には患者さんの選択権はありません。特に総合病

院などの場合は、色々な症状、合併症をもった患者さんを受け入れなければならず、当然高度な治療技術と患者さんのケアが要求されます。

糖尿病や高齢者の患者さんは、一般の患者さんに比べて体力的に透析の負担に堪えられなくなつていきますので、画一的な血液透析治療では良い結果が得られないだけでなく、場合によっては患者さんに苦痛を与えてしまいます。

例えば、ハイパフォーマンスタイプの透析機などを用いた透析効率の高いダイアライザーは、種々の合併症の改善や予防に有用ですが、透析中に不均衡症状が出現しやすいので、糖尿病や高齢者においては身体の小さな患者さんには不向きな場合があります。このような患者さんにハイパフォーマンスダイアライザーを使用する場合には、血液流量や透析液流量を少なくしたり、透析液の組成を変更するなど、患者さんに応じてこまかく透析条件を変更し、安定した透析が行えるよう工夫しています。

特に透析液は不均衡症状の出現に大きく関与しているので、糖尿病や高齢者の患者さん用にナトリ

ウム、バイカーボネート、アセテート、グルコース濃度を変更した新しい透析液の開発を進めています。

これからは、血液検査の結果だけでなく、苦痛の無い安定した透析治療が行えるよう努力していきたいかなければなりません。

◆一般の患者さんにたいしては、どのようなことに気をつけて治療されていますか。

柴田 私の勤務する透析室では、週二回透析の透析患者さんが多くいます。透析治療の面から考えると週三回透析の方が望ましいと思いますが、患者さんの社会復帰を考えると週二回透析の方が有利だと思えます。週二回透析の話をしたのは、一つの例として、透析治療は患者さんの日常生活をも含めた中で、患者さん個々に一番合ったより良い透析を考えなければならぬということですね。

治療面では、長期透析に伴う合併症の予防対策としてハイパフォーマンスダイアライザーを積極的に使用します。特に週二回透析では、週三回透析と同程度の透析効果を持するため、一透析当たり透析効率が高くなり、どうして



も不均衡症状が出現しやすくなり

ます。これらの症状を軽減または

予防するために透析技術を工夫しています。ここで培った技術が週三回透析の患者さんにも応用さ

患者とスタッフによる

より良い透析の追求

れ、より快適な透析治療を可能にしています。

◆透析装置の開発にも長く関わってこれたと何ってしています。

柴田 透析治療は、技術の積み重ねです。企業でいろいろな装置が開発されますが、企業の努力だけで必ずしも良い装置ができるとは限りません。

私はモノ作りが好きで、これまでに重炭酸透析システムなどのアイデアを企業と共同開発の形で実用化してきました。現在は、「患者さんに優しい」をコンセプトにした新しい透析システムの開発に取り組んでいます。

本来良い透析装置とは、性能面だけでなく操作性や安全性など、現場で装置を取り扱っている人の意見が十分に取り入れられたものでなければなりません。

また、新しい透析装置の開発のヒントは医療現場にあるわけで、そういう意味では、技士の研究範

囲は広いと思います。
◆患者の意識の変化について感じていることはありますか。

柴田 治療を円滑に行うために、お互いに話し合いの機会を多く持ち、信頼関係を作ることが必要だと思います。

最近、患者さんから患者サービスタについていろいろな要求があります。しかし、病院も経営があり医療スタッフの数も充分ではありませんから全ての要求に応えることはできません。ですから目先の便利さに捕らわれず、患者さんにとって一番大切な透析技術の向上に力点を置いた運動をされることが大切だと思います。また、透析について全て医療スタッフ任せでなく、患者さんにももっと関心を持って、良い透析について考えていただきたいと思っています。



青年部結成ボウリング大会 (1990年1月)

一昨年、ボウリング大会を開きはなばなく青年部を結成し、今年で青年部の活動は三年目に入り二回目のボウリング大会、高尾山ハイキングを計画しましたが、諸事情により開くことが出来ませんでした。その間、関東ブロックの

青年部眼りからさめ 動き出す

青年交流会には積極的に参加し、各県の青年部との交流に参加してきました。

今年度は常任幹事会でこれからの運動を進めるためには青年部の協力が第一と考え、青年部を充実させようと話し合われてきました。

五月二十八日には青年部の会議を開き、まず、動いてみなければ始まらない、「とにかくとにかく」と部長に村田茂さん(上野病院のばす会)、副部長に軽部和之さん(立川相互腎クリニック希望会)、広瀬惣子さん(くにたち桜会)を新たに選出し、すでにご案内の「りんどう湖バスハイクル」を企画しました。

関東ブロック会議で

青年部の経験交流

六月二十七日から二十八日にかけて千葉市内のパレスホテルで開

東ブロック会議が開かれました。

この会議には千葉をはじめ各都道府県からの青年部員も数多く参加し、関東ブロック青年交流会の進め方など話し合われました。各都県とも今後の活動に青年部の活動がたいせつであることの認識を新たにしました。

青年部員募集

東腎協青年部では、部員を募集しています。

条件としては、申し訳ありませんが、原則として四十五歳までとさせていただきます。

申し込みは

東腎協事務局

〒一七一 東京都豊島区

TEL

FAX

東腎協20周年記念

大ゲーム大会



◎日時 9月27日(日)
◎会場 戸山サンライズ体育館



(連載・その8)

加藤 茂

私の雑記帳

四〇・二kmのハイキング

一度は参加してみたかった東武鉄道の主催するハイキング。完走すると歩く距離が四〇・二kmになる。どれだけ自分に歩けるだろうかと、と気軽な気持ちで応募してみた。なにしろ五千人が参加するマンモスハイキングなのである。

四月十九日(日)第七回秩父七峰縦走ハイキング大会が実施された。私は、午前四時過ぎに起き、東上線の一番電車で埼玉県の小川町の駅に向かった。六時半着、すぐ受付で登録を済ませ、歩き始めた。車道から農道、山の中の道をゆっくりだが確実に歩く。

野山は新緑の葉で覆われ、道端にはタンポポ、スミレ、農家の庭

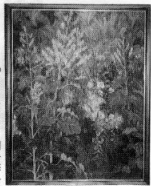
先にはいろいろな花が咲き、こいのぼりがはためく。こんな気持ちのいい季節があるんだなあ、と思った。登山道にはまだ桜が咲き誇っていた。山を登り、下り、また登る。途中で横なぐりの激しい雨にもあった。寄居駅に向かう最後の一〇kmは足は棒のようになり必死の思いで歩き通した。十七時半、十一時間余りかけて完歩した。完歩記念にTシャツと記念パッチを貰い帰宅した。体はとても疲れたが、いい体験だった。透析患者じやないから、こんな無理もきくん

先にはいろいろな花が咲き、こいのぼりがはためく。こんな気持ちのいい季節があるんだなあ、と思った。登山道にはまだ桜が咲き誇っていた。山を登り、下り、また登る。途中で横なぐりの激しい雨にもあった。寄居駅に向かう最後の一〇kmは足は棒のようになり必死の思いで歩き通した。十七時半、十一時間余りかけて完歩した。完歩記念にTシャツと記念パッチを貰い帰宅した。体はとても疲れたが、いい体験だった。透析患者じやないから、こんな無理もきくん

門枘泰子さんのこと

「いつも美術館だよりありがとうございます。楽しく拝見させて

「たけにぐさ」 門枘泰子



いただいたております。東光展お出かけ下さい。題「たけにぐさ」F80です。機関紙東腎協でのご活躍も拝見しています。ではよろしくお願ひします。 門枘泰子

広島県に住む門枘泰子さんから今年も東京都美術館で開催する題五十八回東光展(四月二十三―五月七日)の招待券を送っていたのだ。四月二十六日、上野公園に出かけて、毎年、東光展に出品して入選している門枘さんの絵をみせてもらったのだ。彼女は、昨年の全腎協総会の会員作品展にも出展していた。

招待券を送っていたいただいたお礼のハガキにはこう書いた。
「爽やかな風と新緑の美しい季節になってきました。招待券を頂き、ありがとうございます。早速出かけました。上野公園は人、人で覆われ大変な賑やかさです。」

東光展の会場に入るとブーンと油絵の具の匂いがしました。公募展って作品の数が増えて多いんだろうか、と思いつながら次々と展示室を巡っていきます。十六室に門枘さんの絵があります。毎年、情熱を傾けて身近な草花を題材にしているんですね。門枘さんは入選すると、上野まで見にくるのでしようか。

東光展を出て「サンフランシスコ美術館名品展」を同じ都美術館で開催していたので見ました。

一九九二年四月二十六日

実は、まだ門枘さんとは一度もお会いしたことはない。それがどうして知り合いになれたんだろう

●全腎協の患者運動で知り合った貴重な出会い 門枘泰子さんの事



長野県小千谷市、錦鯉の里で

など思うのだがよくわからない。門枘さんは、広島県腎友会の役員を長年務めているが、ずっと機関誌の担当者として現在も頑張っているのである。私が、まだ東腎協

の役員として『東腎協』の編集に携わっていた時からその名前を知っていたのだが、どんな人であるか、いつか会った時にはわかるであろう。全腎協の患者運動を通じ

て知り会った貴重な出会いである。門枘さん、これからも頑張ってください。

『東腎協20年誌』に思う

秋に発行する『東腎協20年誌』は、原稿依頼も基本的に終わった。私は、今までの機関誌や、『あゆみ』（東腎協10年誌）を読みなおしてみた。結成前後の頃、全腎協とともに運動の前進を勝ち取っていく頃、多くの人たちが活動に参加したが、亡くなっていった人も少なくない。初代会長の寺田修治さんとはほんの短い期間しか一緒に活動ができなかった。正直なところ、どんな人だったかは、私はほとんど記憶がないのである。しかし、機関誌を改めて読んでみて感じたことは寝食を忘れて他の患者のために活動に情熱を持っていた人だった。

『あゆみ』に全腎協会長だった故上田昭さんは「全腎協結成の頃」と題し、寺田さんのことを次のように書いている。

「当時（全腎協結成の頃）の都立大久保病院腎友会の会長であった故寺田修治氏は、全腎協役員ではなかったが、（四十七年度は会

計監査として役員に名をつらねた）渉外調査部の都庁担当専門委員という形で、大いに奮闘された。同氏は、四十五年（昭和）三月から透析を始め、当時新聞に、大久保病院社会復帰第一号と紹介されるなど、お元気であった。勤務が都税事務所という関係もあって、『都議会だより』はじめ広報資料はいつも同氏から提供を受けた。」

『東腎協20年誌』は、志半ばで倒れてしまった多くの役員も活動も記録するものにならなければ、と痛感したのであった。

六月二十日、『20年誌』の第七回編集委員会を開いた。前回（四月）からの進行状況、各自の原稿分担状況など確認しあった。既にインタビューを終えた糸賀さんは、「オレはすごく勉強になったよ。先週の土曜日（十三日）に会ったんだけど、午後三時から九時半まで話しこんでしまった。透析で十九年、そして移植してから二年、今順調だって。彼が透析って大変だったことがわかったと言っていた。何とかという難病にもなってしまうが頑張っているんだ」

一九九二年 夏
（『東腎協』編集委員）



自転車で元気に働く酒話孝子さん

透析人生は面白い——これはだれしも思うことでしょう。治療といつても終わりのない治療なのですから。その中で人間の自然治癒力の奇蹟を信じ、投薬も控え目、自分には明るい明日があると、頑張っている酒話孝子さん（三十七歳）婦泉病院二一し友の会 にお話をうかがいました。それは爽快なものでした。

自然治癒力を信じる

酒話さんはもちろん週三回の透析をしています。移植希望の登録

はしていますが、現在は移植するつもりは全くありません。たとえ機会があってもしらない決意だそうです。

人間には自然治癒力がある、自分の体でその奇蹟を起こしてみたい。——これが酒話さんの夢です。院長の須藤祐司先生に相談した所、薬はできるだけ使わないようにして下さいました。

長いあいだ続けていた輸血も昭和六十三年以来、もう五年もしていません。もちろん腎性貧血には奇蹟の薬といわれるエリスロポエ

チンも使っていません。抑圧剤もやめました。ヘパリンも最低量にしてみました。それでもヘマトクリットは、今では二七・三〇%を維持していますし、血圧が透析前で一五〇―一七〇、透析後で一二〇―一四〇と安定しています。

夫の愛情に包まれて

酒話さんは高校入学が決まってもすぐ慢性腎炎で二カ月入院し、高校一年を休学しました。高校は無事卒業して、簿記学校へ進学しました。

二年して卒業間近に慢性腎不全から呼吸困難におちいりました。透析が何としてみてもいやで、食事療法で一時的にげたのですが、カゼから肺炎をおこし尿毒症になってしまいました。近くの病院から婦泉病院に移り、ようやく透析を始めました。昭和五十一年三月、酒話さん二十一歳の時のことでした。一カ月間シャントなしの透析をしたそうです。一カ月たってシャントもでき通常の透析生活に入りました。五年も生きられたらいい、これがその頃の酒話さんの心算でした。今、十六年たつて、生き生

会員さん訪問

第46回

酒誌孝子さん

人間の自然治癒力の奇蹟信じ
自分には明るい明日がある

きとした酒誌さんがいて、急ぎつくったシャントも健在です。

酒誌さんは簿記学校時代に経理関係の道を進みたいと、それまでの仕事をやめて、同校へ入学してきた二歳年上の現在のご主人と知り合いました。

病気持ちの酒誌さんは自分はこの体では結婚できないと思っ

ていましたが、ご主人は親の反対を押し切って、結婚を約束してくれました。酒誌さんの病状が悪化して、貧血と高血圧に苦しみ、とうとう透析生活に入ってしまった

のですが、ご主人の気持は変わらず、二人は酒誌さんの実家で、一緒に暮らし始めました。

卒業後、ご主人は会社づとめ、酒誌さんはしばらくして母親の損害保険の代理店を手伝い始めました。

透析、それに貧血と高血圧に悩む酒誌さんは主婦らしいことは今の半分もできなかったとおっしゃっています。掃除は一日おき、食事は店屋物をとってすましたりするような主婦でしたが、ご主人は「透析患者はこんなものだろう」という理解と深い愛情で、そんな酒誌さんを支えてくれました。

人のために役立ちたい

昭和五十九年に転職がきまし

た。酒誌さんの心の支え、生きる支えになった「崇教」との出会い

です。酒誌さんにとって回生ともいえるこの出会いで生活は一変しました。「回生」して三年、あれほど悩まれた貧血、高血圧が好転したのです。透析開始以来十年間、毎月していた輸血もしなくな

り、血圧も落ちついてきました。昭和六十三年、酒誌さんはそれまでいた実家を出て、実家近くのアパートに移りました。体調もよくなった酒誌さんは、まず完全に独立して、ご主人と二人の生活を築こうと決意したのです。

主婦のつとめも果せるようになり、アパート生活五年間で店屋物をとったのは一回だけよ。酒誌さんは楽しく話してくれました。翌年十月、正式に入籍しました。強く反対していたご主人の両親もついに二人の関係を了解されたのです。

酒誌さんは睡眠時間六時間、自

転車とバイクをのり回して仕事をこなしています。今では汗も出るようになり、日光の下でも元気に働けるようになったそうです。

「この元気になった体を使い、これまでの自分の体験を通し、人様のために何かお役にたちたい」と酒誌さんはそう思っています。

その上で、人間の自然治癒力を信じて、薬にたよらず自分の力で病氣とたたかっていたいきなりの病氣とたたかっていたいきなりの病氣から、自分の考えを話されたのです。院長先生が了解されたのは、酒誌さんの本当に元氣な姿を見たからでしょう。顔色といい身のこなしといい健康人そのものです。透析は休息の時間、寝るために行くようなものと酒誌さんはいわれませんでした。

不思議なものです。ね、これまで「会員さん訪問」でお会いしたほとんどの方々が、透析は苦にならない、本当に休息できる、あるいは勉強の時間、と語られました。プラス思考の人、これが透析生活でも明るさを失わない人たちのだと、私は確信を深めました。

(文・写真 小胞)

(レイアウト 加藤)

全腎協第22回総会北海道で開く

福祉にも危機が迫っている!!

全腎協第二十二回総会が北海道札幌市の文化会館で開催され、全国から一千百十四名の会員・家族が参加されました。午後から六つの分科会が開かれ、東腎協の人たちもそれぞれの分科会に分かれ、討議に参加しました。

白と紫のライラックの花が薫る札幌、札幌で全腎協第二十二回総会が開催されました。五月二十四日当日は前日の交流会の地、定山溪からバス十六台を連ねて、ぞくぞくと会場の札幌市教育文化会館まで仲間が参集しました。

東腎協からは二十一名が会場中ほどの座席をしめ、熱心に総会の議事に参加しました。全国からは千百十四名に達したということです。

各県における県腎協の比重は東京とはちがった意味で、重いので、岩崎道腎協会長の挨拶にひき続き、横路北海道知事代理を初め、錚々たるご来賓の祝辞がありました。油井全腎協会長は関係各位に感謝を述べるとともに「福祉にも危機が迫っている、みなの方の結果が何よりも大事である」と訴えました。

小関副会長による活動報告も重要事項をわかりやすくヒ

た。といつても全文を読む時間はなく主要点の解説にならざるを得ないことを謝りながら提案し、総会の忙しさを再認識させました。予算案まで無事、了承され、法人化問題の字句に訂正要望などありましたが、午前中の議事は予定どおり終了しました。

昼食をはさんで分科会が開かれ、また全体会に戻り、分科会報告がなされました。力強いスローガン採択、総会宣言は道腎協の女性の素晴らしい美声によって提案さ

された。満場の拍手で採択されました。閉会の挨拶は生田副会長の簡明な言葉でしめくられ、ここに二十二回総会はすべて終了しました。

前夜の交流会にも七百五十人という多人数の参加で、道腎協のご努力は北海道の風のように心に吹きぬけるものでした。(木村)

東腎協副会長として全腎協運営委員会に出ている柳財部部長による決算報告は超スピードで進み眠くなる間もないほどでした。

一九九二年度活動方針は小林事務局長の担当でしたが、読み上げによって行われまし



全腎協総会（札幌大会）に参加した東腎協の人たち

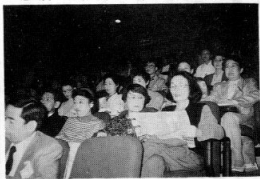
〈第一分科会〉
透析医療と供給体制
会長 泉山知威
第一分科会で討議されたテーマは四点であった。
まず第一に、「透析時間と透析医療水準」について討議された。石川県の会員からは、「自分は四時間半であるが、新潟県では六時間透析だった患者が転院してきたが、四時間透析にされた例がある」との発言があった。これに続き愛媛県・北海道・岐阜県の会員から報告・意見がだされ、三重県の会員から、「人工腎臓が足りずに三交代制がとられている」との深刻な状況の

発言もあった。そして、大分県の会員からは、活動方針の「短時間透析などの研究・開発をすすめること」との文章は、短時間透析を推進しているように誤解される。「効率的な透析の」と文言を変更するようにとの修正案の提案もあった。

透析医療水準・施設間格差については、患者にたいする看護婦の人数や、止血などごまで患者がやるべきなどの発言が続いた。

第二としては、「外来透析患者の検査が定額化された」問題であった。これについては「医療の質の低下」を心配する発言があった。

第三としては、「看護婦不足の問題」についてであった。東京都の会員からは、東京都の平成四年度予算には「看護専門学校の新設・3カ所に、看護業務改善研究補助」などがついたとの報告があつた。



熱心に聞き入る東腎協会員

た。第四としては、「難島・へき地対策」について討議された。

また、神奈川県川崎崎クリニクの会員からは、神奈川県は全腎協を退会しているが、このたび直接入会できたことについて、御礼の発言があつた。

(第三分科会)

腎臓移植と脳死問題

常任幹事 吉田 英和
小ホールで行われ八十八人が参加された。

司会者の挨拶があり中心テーマの話合いにはいる。やがて脳死問題と腎臓移植は別問題であると話が煮詰まり、腎臓移植問題が中心となる。

発言者の主な内容は、①年齢に差はないと思うが……②他の県ではどのように腎臓移植をやっているか知りたい。③糖尿病から慢性腎不全になる患者が多いと言われているが、全国的なのか。④交通事故故死の人からの腎臓移植を……。⑤来年腎臓移植するのでその心得など教えてほしい。その他など、種々意見が出され、それに対する回答があつた。

そして腎臓移植をして成功した喜びの発表があり、「①弟が丈夫で元気だったので弟から貰い、拒絶反応もなく現在弟と共に元気です。②私は死体からの移植で少期間の拒絶反応があつたが、現在元気そのもの。水が思うように飲め又汗も出小水も出会社でも若い人に負けずに元気にやっている。」など、いずれも腎臓移植してよかったメ

リットの話がしばらく続く。だが数人から腎臓移植して不成功に終わり、現在人工透析をしていると悲しみの発言もあつた。

やがてこれからも腎臓移植をして成功した人たちの座談会や意見発表などを、会報など、その他を通してPRをし、腎臓移植のすばらしさを会員の皆さんに知らせてほしいことや、その知識をもっと勉強して、実社会や本人及び家族のためにつくってもらいたいと結んで散会した。発言者二十二名。

〔第三分科会〕
CAPDの普及と問題点

副会長 木村 妙子

普通の血液透析を行っている会員にとってはCAPD(持続的腹膜透析)は遠いものかもしれません。しかし、すでにCAPD患者は五千人を超えているとのことです。

分科会には実際にCAPDを受けている会員も参加して、体験的な意見を多く発表してしました。殆どの方が、

血液透析をなぜ、やっていたか、早くCAPDに移らなかつたかと、現在のすこし易さを説いていました。しかし、安定したCAPD生活を続けるには、条件があり、それをクリアしないと難しいと思います。

腹膜炎を引き起こさない知識と技術の自己管理能力。一日、四回の液交換を可能とする周回の理解と場所の確保。そして、ニリットの液体を腹膜に常時、貯留させていても動ける体力などが満たされれば、社会復帰は百パーセント可能で、食事制限はゆるやかで、通院は月一回程度で済むし、QOL(生活の質)の向上ははかりしれないことを痛感させられました。

問題点も多く、公立病院などでCAPDを推進していた担当医が異動してしまうと、患者は置き去りになってしまう。また施設によって、患者の自己負担額が大きく異なり、病院経営者に厚生省の通達をそれとなく確認し、改善を計るようとの助言が全腎

協サイドからありました。その他、ブドウ糖液を使用してはいる場合は血糖値が上がる傾向があるので、カロリー制限をしなければならぬということも体験者から指摘されました。

最後に組合情報伝達方法で、CAPDの液交換室や加温器の用意があることが、県腎協の未端レベルでよく伝わっていることが、反省点としてあげられ、今後再度徹底する事が約束されました。

〈第四分科会〉

要介護問題

への対応

事務局長 草間 和男

全腎協では要介護について実態調査を行い、「要介護透析患者確立のために」を発表した(全腎協No二四で紹介)。分科会ではまず、その概要について報告があった。報告に続いて討議が行われたが、共通の意見として多くでたのが透析施設への送り迎えのことであった。これは、

私も病院で会員と話し合っているが、骨の合併症などで自分で通院出来なくなったときどうするか……、大きな問題である。

公的には車イス用の福祉タクシーがある千葉などの報告があったが、病院として送迎バスなどを善意で出しているところが多い。これも、また極めて少ないが……。東京では幾つかの病院で送迎バスがあると聞いている。

もう一つ要介護透析者の受け入れ施設の問題で話し合われた。要介護の老人ホームなどが作られている報告が二、三の県からあったが、有料でお金がある人しか入れない問題がある。公的でしかかも若年でも入れる要介護透析施設の実現が望ましい。

東腎協としては今年の二十周年記念事業の実態調査に要介護の項目を加えるなど取組むが、東腎協としてはまた、要介護について話し合いが持たれていない状態なので、今後じっくりと話し合わなければ

ならない問題であると感じた。

〈第五分科会〉

就労と所得保障

副会長 糸賀 久夫

最近の透析患者の就労状況の特徴点は、高年齢化にともない、全体の中で無職の割合が高を占め、増えている。また、殆どの人が何らかの職につき元気で働いている。しかし、若い人達には、適当な職がないとの声もある。

健常者との比較では、腎移植者は、六割が健常者と同じように働いていると答えているのに対して透析患者は、二割と少なからず何らかのハンディを感じながら働いている人が八割と高いなど全腎協より報告があった。

身障者に対する社会の理解が深まってきたとはいえ、企業の理解は、まだまだ不十分で特に大企業の雇用率がよくない。全体では、法定雇用率一・六％に対して、実際の雇用率は、一・三二％にとまっている。

参加者からの声として、企業の理解を深めるためには職安との連絡を密にし、透析患者への正しい理解が必要では。また、各種専門の資格をとって、就職に利用していく

ことも必要では等が出された。全腎協がPRに努め、本人の意欲が一番大切である。年金問題では、無年金者に対する救済策として、神戸市が「重度心身障害者・特別給付金」年額十八万円を実施。大阪市でも同様の事業が実施されることが報告された。

〈第六分科会〉

これからの会活動

会計 中田 青攻

第六分科会に東腎協から参加し、中心テーマの福祉八法(施行平成五・四)の施行に伴う市町村段階での、活動に取組む患者会の組織作りと対応について、東腎協段階では手探り状態のようで、東腎協としてこの問題について、今後討議事項に加える必要があるのではないかと。

念を持つ発言があり、私も正直言って法人化に伴う、全腎協の内部組織についてその説明が、まだ不十分な所が多く、特に、メリット、デメリットの対象のなかでも、メリットについての全腎協の説明が十分ではないように思う。各県組織においてこれら十分な討議、検討がなされて、この問題に慎重に当たるべきではないか。

今回、実施された血液検査料の定額制が、全腎協の預かり知らない段階で進められた経緯から、今後、医療全般について中医協、社会保険審議会等の審議経過について、これを契機に情報の取捨に万全を期し、全腎協として、今回のようなことのない取組む必要があるのではないかと。

総評として時間的な制約から、分科会のテーマが多すぎて、今回は三項目程度しか討議出来ない状態で、今後は各ブロック会議のなかで、討議を積み重ね集約した結果を総会後の分科会で交流討議してはと思う。

全腎協法人化問題に強い疑

私のふるさと

岩手県渋民村

国分寺南口クリニック観光会 竹田 文夫

かにかくに渋民村は恋しかり
思ひ出の山思ひ出の川

この詩は歌人石川啄木の一句である。この渋民村が私のふるさとです。渋民村は岩手県の県庁所在地である盛岡より北へ八キロ離れた静かで景色の美しい村です。

今から四十年前に会社勤務で生家を出て上京しましたが、何時までも我村の渋民は恋しく、山や川は唯一の思ひ出に残って居ります。

この渋民村は西には雄大な岩手山を眺め、東にはやさしい姿でそびえて居る姫神山を仰ぎ、村の真中を北上川が流れ、東北本線と国道が並列に村を縦断して居ります。丁度谷間になって居り、地理的には北緯四十度に位置して居る村です。

岩手山は南部の片富士と呼ばれ(旧南部藩)見る方向に



よつてはとても美しい富士の形をした山で標高二〇八五メートルの山です。近くには有名な小岩井農場があり、十キロの所には観光地で名の知れた八幡平があります。

東の姫神山は北上山脈の秀峰として知られ、又、霊山として信仰を集めた山でもあります。すそ野には人造湖として日本一の岩洞湖という湖があります。この一帯はすすらの群生地でもあり、白樺の



啄木の碑(岩手県渋民村)

林の中にはキャンプ場に、ピクニック広場、おまつり広場、ファミリー広場など自然とのふれ合いで楽しめる所です。

啄木の句の中に

「ふるさと山に向いて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」

まさしく長いこと里を離れて、時に帰って見ると村の農家の曲り家や小学校などは近代化されて変わっては居るが、野山は相変わらず、東西の山を眺めていると、何も言うことなく、ただ見続けるのみであります。写真の啄木の石碑は北上川畔を見下す小高い丘の上に建てて居り小学校時代は廻りにはこの廻りでよく遊んだものです。

やはらかに柳あおめる北上の岸辺に見ゆ泣けとこくとにと彫っており、ここからの川辺を歌ったものです。神童とも言われ、こよなく渋民村を愛した石川啄木は二十六歳という若さで生涯をまっとうした人です。私の父親が小学校で同級生だったそうで良く啄木の話の聞かされたもので

す。従って私は啄木の後継になる訳です。

昭和二十二年に啄木が映画化され、我が村でのロケションがあり小学生は全員ロケに参加する為学校も十五日程休んだものです。映画の題名は「我れ泣きぬれて」と言って啄木の青年期(代用教員時代)が主体でありました。

この村は岩手山の麓の為、清流が流れて居り、ワサビやせりが良く育ちます。果物ではリンゴに栗、それに名物の黒豆とそばがあります。清流の谷川には岩魚にヤマメなどがおり、結構いろいろなものが採れる村です。名物のわんこそばは渋民では大きなおばんに入れるので三杯も食べれば充分満腹になります。

春は野も山も花が一斉に咲き、夏は高地の為涼しく避暑地として最適、秋は紅葉が美しく冬は近くにスキー場と四季を通して楽しめる村です。盛岡方面に出かけることある方は渋民村まで足を延ばして見て下さい。私にとつての良い村懐しきふるさとです。

のたまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの随病記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽に書いて事務局へ送って下さい

短時間透析に寄せて

湯島腎友会

北爪 勇

透析を始めて五年が過ぎました。この間、私の経験した事から書いてみました。

私は中小企業の小さな下請けの会社で、病氣もせず仕事に精だしていました。健康診

断もせず働いていました。大企業は就職時に厳重な身体検査をし、病弱な人はふり落されます。だから大きな病氣の発生は少ないのでは……？。

中小企業の労働者を主体にした国民健康保険者は給与の低い人たちが多くええ、また、病氣の発生はいつも高いのでは……？。

そんな中、会社から健康診断表を出して欲しいとの事で保健所に行きました。始めに血圧を計る老いた先生びつくり、上二〇〇/下一七〇、そういうえば二、三年まえから鼻血が出たり、一日中頭が痛かった。すぐ近隣の病院で見てもらおう。高血圧、尿蛋白を指摘された。順天堂医院で検査、

腎機能悪化指摘され、精査加療目的でS六十二年八月二十八日入院となる。

BD二二〇/一二〇、BU N一〇九、K六・六、シャントOPF施行、安静、食事療法、高圧剤でBD一三〇/七〇前後へ、BU N五〇、K五前後へ落ちたため退院となる。

食事療法で二年間頑張るが、六十三年九月二十八日より透析導入に入る。病院では週三回、時間二時間半透析との事を話された。

透析導入時は体が機械について行けないのか、血圧降下して失神していた。正直言うて病院に行くのが恐かった。

二時間半透析 さて、ここで本論の短時間透析の問題に移ります。短時間透析の第一条件は血流量、血圧降下しない事、体重を増やさない事(水量)だと思えますが、私の今の血流量三〇〇cc、体重も(ドライウエイト)から二kgも超えないようにしています。体重のコント

ロールには毎日日氣を使います。

私は透析技術の事は分かりませんが、尿毒素などの除去のほかに、中分子物質やβ2ミクログロブリンなど分子量の大きな物質の除去が必要とされているが、膜の良い透過サイズの大きなダイヤライザーが必要との事。パイオロジタン(発熱物質)やエンドトキシン(毒害物質)の逆流現状が生じるとの事ですが、一度もないとの事でした。(順天堂医院透析室)

透析者の束縛される時間が短くする意味では短縮化は有利ですが、透析はあくまで個々の人達の病態に合わせて行うべきだと私は思いますが……

治療者側の考えることは基本は日常の食事管理が第一と考えます。とくに食事管理の甘さから生じる体重(水分)過多、血圧管理の問題、シャント良好、つまるところ透析者の日々の自己管理が左右するわけですが、人間個々に体調関与も考えられますが……?

私の最近の検査記録を書きましょう。H4、5、11、BU N前七〇/後二四、クレアチニン二・一/四・〇、尿酸六・五/一・三、Na一四四/一四二、K四・六/三・六、Ca四八/四八、P三・七/一・四、総コレステロール一八四/二〇八、赤血球三一八、Hb一〇・〇、Ht三〇・一、TO七八八/八六、血清鉄一〇・二GR四九・八、

短時間透析、長時間透析賛否両論と思いますが、いかがでしょうか？

自分の命を守るのは自分なんだと自覚して頑張らなければと思います。

「若さ」は年齢に関係ない。十代の老人もいれば八十代の若人もいる(心身的に)。サンスウエル・ウマルンの詩の中に

歳を重ねるだけで人は老いない。理想を失ったとき初めて老いる。

悲観の水に閉ざされた時二十歳であることも老いるという。

心輝けば人生は輝く、今、

に花びらが舞った四月五日（日）、東腎協第二十回総会とシンポジウムが盛大に開催された。私は何年ぶりかで参加させてもらった。総会は参加者全員が真剣だった。

しかし、透析二十数年の歴史がそうさせるのか、安定している透析がそうさせるのか悲憤感はなく感じられなかった。その会場にあったのは悲壮感ではなかったらうか。腎不全と争い、透析と共に生命への意気こみがそこにあったように思われる。

東腎協二十年、その運動の歴史と成果は偉大であった。腎不全患者が安心して透析を受け社会復帰が出来る時代になりつつあるからである。先輩の血液まみれの争いが藤にあることを忘れてはいないだろうか。いや今尚争い続けている患者と同志が居ることを忘れてはならない。

透析患者十二万人と言われる今日、全腎協加入者は約半数と聞いている。人まかせの風潮が感じられてならない。私もその中の一人だが運動

への理解と感謝の気持を持ち続けたいと思っている。

運動の原点は全員が一人のために一人一人が全員のためにねばり強く繰り返して繰り返して行っただけの原点でありました。『言うは易し行は難し』これも又知っていることである。役員諸氏の健闘を期待する。そしてこの言葉を贈ります。当日参加八十二歳の男性透析患者からである『ありがたいことです。こう云う運動をやってくれる人が居るから本当に助かるんです。知らん顔をして居る人の気がかわかない』ここに大きな感謝の

気があった。

シンポジウムも意義深く聴かせていただいた。討論者の依頼も良かったと思う。腎不全と争う人が何故このように明るく希望をもって生活が出来るのであろうか。各々の立場で目標に向かって生き抜く力がそこに感じられる。又時代の流れも見た。生きることのみ目標から社会に復帰し社会に貢献する姿を見た。更に腎移植を受けた方が明るくたくましく生活する様子聞き希望を与えてくれたのも事実である。また腎不全患者を出さないための行政にも期待

したいものである。医療最前線の先生の話しも興味深く聞くことができた。特に腎不全に対する最終的な治療は透析でも腎移植でもない『自家腎培養？』こそ根本的な治療にならうと云う旨の発言にはその内容は良く理解出来ないが、成程と感心させられるものがあつた。

最後に東腎協の運動が一つ一つ成果に結びつき明るく豊かな社会になることを祈る。

母港的病院のない 独航船(透析者)の 顛末記

私は去る二月二日の午後一時ごろに、自宅から約二〇メートル位離れたスパーに買物に行く途中、前日降った雪が凍結していた道路で滑り仰向けに転倒して左大腿部を骨折してしまいました。

親切な通行人の人々が直ぐに救急車を呼んでくださいました。到着した救急隊員が私の通院していたクリニックに救急連絡を取ってくれました。このクリニックでは整形外科の手術が出来得ないという事でした。

そして、このクリニックで透析と外科手術の出来る病院に連絡を取り、交渉をしてくださいましたが、総ての病院から空きベッドがないとの理由で拒絶されてしまいました。

い、取替え救急隊の判断で、足立区内にある救急指定病院に入院する破目になってしまいました。

しかし、この病院は差額ベッド代や付添い看護料が大変掛り、私みたいな年金暮らし、素寒貧の文無しでは逆も安心して入院出来る病院ではありませんでした。

それ故に私は急遽文京区にある民医連系の病院に事情を話して入院を切望致しましたが、病院側はわざわざベッドを譲り譲りして下されまして、私を快く入院させて下さいました。

このことは私にとりましては地獄で佛に出会ったような嬉しさでした。そして今日では骨折の方も順調に回復しており、毎日親切な先生と看護婦さんに接しながら、安心して透析を受けつつおられます。

私は今度の事故でつくづくと、我々独航船は、いざ大事の緊急事態に遭遇した時に、速やかに避難出来得る母港の病院が絶対に必要だとい



20周年記念シンポジウム

うことが分かりました。

それ故に全国にいる約十万人程いられる各々の独航船の方は、是非共母港の病院を確保しておく事が、今後の人生の航行にとって大切な事柄だと思ひまして、老婆心ながら拙筆を認めた次第です。

(匿名)

平成四年四月十七日

節水

須田クリニツク

白井 次郎

節水——といっても都水道局の夏の濁水時のPRじやなくてこつちのことだ。東腎協93号に掲載された調布病院の三樹さんの文には実によく水分が制限された時の心情が表現されている。私も最初検査で女子医大へ入院した時「水は六百cc位にしておくんですネ」と言われた時は実にショックであった。

今年の正月家族で温泉へ出かけた。湯上りは咽喉が乾く、それに部屋は暖房だから空気が乾いているから余計、水が飲みたい。増えるゾと考へな

がらツイ、コップに手を出す。

二日目の午後、長男が「麻雀でもやろう」と言い出し長男は早速冷蔵庫からビールを出し一杯やりながら牌を並べる。こつちも一杯付合いたい所だがジツと我慢、孫たちはジュース瓶に入っているいい色をした液体に猛烈な誘惑を感じる。「オジちゃんに少しし」と言つて口にするが後が始末が悪い。甘いジュースは返つて水が欲しくなる。

意地の悪いもので週二回の時に限つて飲まなければならぬ会がある(飲まなければいいのに生来の飲助だから)大体短くて二時間半、二時間ともなればセーブしても結構入る。

近頃は水張りと呼び水に少量のウスイキーの入つたのが運ばれる。これは大いに迷惑、水にウスイキーだけに頼んでも水を入れて来る。

穿針の時に増えた訳を院長に話す、院長も大分引上がる様で笑つている。以前の病院の婦長さんはきびししかった。「——こんなに増やしち

や駄目ヨツ」といわれたもの

だ。これが頭のなかにあるのか普通の時は大して増えない。顔馴染の喫茶店では水を出さない。真冬もアイスコーヒ、中身より水に魅力があつたのかも知れない。

K氏という弁護士の方が「ボクは人間らしく生きるんだ」とおっしゃつて、セーブの連荘(レンチャン)だ」と二日も続けて透析。然し先年亡くなられた。やはり引く量

が多ければ自分で辛い思いをするだけだ。喫茶店での客はスウツと飲んで仕舞えば水はそのまま、どうも少々みづともやないと思うが水をガリガリとやる、会議の席上、冷たい飲料が運ばれて、水は皆残したまま、まさか下さいとも言えない。

何年前か、全腎協の総会へ出席した際、会場外がブツカキ水がコップに入れて用意されていたが考へたものだと思ひした。

冷凍血の水はすぐ溶ける。だから私は大き目のタッパ―

に水を入れて凍らし、出して又凍らす。これをカチカチと割る。長男の嫁さんが「この寒いのに水を——」というが健康な人にこの気持は理解できない。

特に私は意志が固くはないが、水木金の三日間経つて二・八kg(宴席があると別だけれど)一日おさなり、一kgにもならない。だが安心して、長男が「どう一杯」とビール瓶を差し出すと美に言いから一kgをオーバーする。

小田急のロマンスカーに乗つて楽しみはアイスコーヒ。客の全部は氷など眼もくれなくて残す。こつちは水が楽しみであるが、給仕の若い女の子は無言でサツと持つて行く。下りが終つて上りの支度で早く片付けたいのだから。喫茶店なら客が立ち去るまでそのままだが「下けて宜しいでしょうか」位、いつてほしいのだが、今の若い女の子に礼儀や作法などと言う言葉は死語と化している。

いつか、三年前にくつたF氏と湯本へ行くのにロマンス

カーでアイスコーヒを早速注文、F氏もコーヒを飲み終つてサチこれから水を——と思つていた矢先、例の如く女の子がアツという間に持ち去つた。

激しい怒声か飛んだ。全く間に髪を入れないという位の早さで持つて行かれた。然し女の子は何故、文句をいわれたのか理解できなくて、アツ~~~~~

表紙のごとは

チンチン電車の愛称で、都民に親しまれた都電も、今では早稲田と三ノ輪を運転する都電荒川線だけとなりまし。車内には、OLやカバシをもつた高校生が、ペビーカーを押した若い主婦が下りると、病院帰りらしいお年寄りが乗つてきました。

今も都電は庶民の足として大活躍です。新型車輛になつても、チンチンとベルを鳴らし、線路端の紫陽花や民家の間を通り、自動車と並んで走る電車は、下町の風物となっています。

(本間)

ケに取られたことであった。
ロマンスカーに乗る毎にF
氏の怒りの顔を想起すること
であった。

同じクリニクのA氏のド
ライウエイトほどの位知ら
ないけれど日月で五kg以上と

私たちの意図する「集い」に

腎臓病を考える都民の集い開催

第六回目の「腎臓病を考
える都民の集い」は六月二十八
日、新宿の住友ホールで開催
され、東腎協会員の他一般の
都民多数が参加しました。

健康な人、また、腎臓病の
初期の人などに、腎臓病につ
いての知識をより深めていた
だけ、腎臓病の早期発見・早
期治療の大切さを知っていた
どころか、東腎協が結成十五

か、食事のときお茶を二杯位
召し上るといふ。湯呑一杯で
百五十cc位はあるだろう。こ
れを三回じや増える訳だ。私
に「どうして増えないの」と
聞くので、増やさないのの
で「す」と答えた。

周年を記念して企画し、東京
都などの共催で昭和六十二
年十一月に開かれたのが始ま
りです。

今回は、例年のごとく松村
さんの司会により、「やさし
い腎臓病の話」と題して東京
都多摩老人医療センターの中
川先生の講演、また、日本医
科大学の村上先生には、小兒
科医の立場から「腎臓病の予
防と早期発見・早期治療」と
題する講演をしていただきま
した。

また、今年は東腎協が二十
周年を迎えることから、「腎
臓病対策に対する患者会の果
たした役割」と題して、東腎
協副会長の糸賀さんが自己の
体験を通した、東腎協の二十
年の活動を語りました。

今回の「集い」では、医療
関係と見られる方の参加も多
く、六回目にしてようやく私
たち主催者側の意図する「集
い」になりつつあるという感
じを持ちました。

また、医療相談も受診者は
二十三人に上り、相談担当医
のほか講演が終わった先生方

にもお手伝いをいただいたは
どでした。

閉会後の参加者の表情から

東腎協20周年記念事業

協賛金目標に今一步

東腎協の二十周年記念事業
は、二十周年総会、シンポジ
ウムに始まり、先の都民の集
いの成功と順調に進んでいま
す。

協賛金についても幅広い方
面から順調に集まっています
が、目標には今、一步です。

二十周年記念誌の作成作業
も順調に進んでいます。今後
秋には学習会、大ゲーム大会、
祝う会が開かれます。今後、
周年を多いに盛り上げていき
ます。

協賛金ありがとうございます

「さいます」

(敬称略)

水川下セツルメント病院
国分寺南口クリニック・小林
健二、腎研クリニック・越野
正行、三軒茶屋病院、医療法
人嬉果会嬉果病院、府中腎ク

もこのような会が主催できて
本当によかったですと感じた次第
です。(森)

リニック、泉山知威、立川相
互腎クリニック希望会、西池
袋診療所・菅田俊秀、小笠原
クリニック、中村クリニック、
新小岩クリニック、医療法人
社団東高円寺クリニック、医
療法人社団東仁会三鷹北口病
院、柳光夫、一ノ清明、上野
正子、佐藤睦子、森田廣明、
糸賀久夫、上野俊男

協賛金をお願い

透析医療機関、透析機器メ
ーカーなど各方面に協賛カン
バをお願いするとともに、会
員からのカンバも受けつけて
います。

郵便振替口座

東京 8-16774

「東腎協事務局」

大口の場合は別途受けつけ
ていますので、東腎協事務局
までご連絡願います。



「東腎協の20年の活動」を語る糸賀副会長

腎臓病を考える都民の集い

講演：中川 威安雄 先生 村上 博明 先生 糸賀 久夫 さん
アトラクション：オーボエ独奏ピアノリサイタル

東腎協会員証

所属病院患者会名

会員番号

連絡先

東京都腎臓病患者連絡協会
東京都豊島区目白2-38-2 TEL.03(3965)7990

私は人工透析患者です。

私に何んらかの異常があった時は至急下記の局に連絡して下さい。

氏名 _____ 生年月日 年 月 日
住所 _____
TEL _____ 血液型 _____
*通院している透析医療機関 _____
住所 _____
TEL _____

会員カード 増刷しました

東腎協では十五周年を記念して会員カードを六千枚作成しました。が、在庫がなくなり、今年、千枚増刷しました。

新会員の加入により、会員カードの必要なのは東腎協まで連絡下さい。会員カードは左・写真のように入会者の緊急連絡カードにもなっています。会員カードのおかげで早急に透析施設と連絡がとれて一命をとりとめたという報告も受けています。

体験的5分間クッキング

透析を終えて、帰宅してすぐ食事の支度に取りかかるのは大変なことですね。手軽で栄養価も高く、しかも経済的な料理——そう簡単でもありませんが、みんな考えていきたいと思えます。今回はまず二種類を。(K)

◇牛乳タマゴ

(材料Ⅱ二人前) タマゴ三個、牛乳三〇〜五〇ml
フライパンにマーガリン大サジ一を入れ、牛乳を入れます。牛乳が煮立ったところへ、ときほぐしたタマゴを入れ、手早くかき回します。タマゴが固まかけたところで火を消します。牛乳の量は好みで減して下さい。食べる時にシヨウ油を少々かけてかきまぜます。パンにもご飯にも、よくあいます。

◇キャベツと豆腐の炒めもの
(材料Ⅱ三人前) キャベツ二〇〇g、ベーコン五〇〜一〇〇g、もめん豆腐一丁

ベーコン四、五cmに切り、キャベツは三、四cmにザク切り、中華ナベにサラダオイル大サジ一を入れてベーコンをいため、続いてキャベツを入れ、キャベツがしんなりしてから、豆腐を手でつぶしながら入れていきます。

味つけは、ベーコンから出た塩分だけでもいいのですが、好みで塩を少々加えます。ベーコンの量も好みで決めて下さい。

冷たくなっても、結構おいしくいただけますし、ご飯にもパンにもよくあいます。

◇キャベツと豆腐の炒めもの
ベーコンとキャベツだけだと動物性の油で炒めた感じになります。が、サラダ油と豆腐が加わることにより脂肪酸の比率がよくなり、繊維と淡泊、ビタミンに富んだ料理と言えるでしょう。

◇牛乳卵少量の牛乳でも効果的な方法ですね。良質の淡白、カルシウム源となり、よく工夫された料理と言えます。

(八木由紀子)

事務局から

心の輪を広げる

体験作文を募集します

一、募集テーマ

出会い、ふれあい、こころの輪
一学校、職場、地域であなたの体
験を広げよう

タイトルは自由ですが、学校や

社会生活、地域活動等のおかげで、

障害を持つ人、持たない人相互の

心のふれあい体験を通じて学んだ

ことや感じたこと、あるいは社会

に訴えたいこと等を内容としま

す。なお、応募作品は未発表のも

のみに限りませう。

二、応募資格

小学生(盲学校、聾学校、及び

養護学校の児童生徒を含みます)

以上であれば、どなたでも応募で

きます。

三、応募期間

平成四年七月十日から九月九

日まで(当日消印有効)

四、応募方法

①募集は、小学生、中学生、高

校生及び一般市民の四部門に

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可
S.S.K.A.通番一九七六号(毎月六回)の日六の日
一九九二年六月二十六日発行

区分して行います。

②用紙は、原則として四百字詰

原稿用紙(B四縦書き)とし、

小学生、中学生については二

四枚程度、高校生、一般市

民は五〜八枚程度とします。

③別紙に、タイトル、氏名(ふ

りがな)、年齢(生年月日)、

性別、職業又は学校・学年、

住所、電話番号、その他参考

事項(障害の有無等)を書い

て、応募作品に添付してくだ

さい。

五、応募先、問い合わせ先

(東京の場合)

〒一六三〇一〇

新宿区西新宿二一八一

東京都福祉局障害福祉部計画課

☎〇三三五三三一一二一一

内線三三三一一三五

(直通)五三三〇一四一四四

六、主催

総理府障害者対策推進本部及び

各都道府県・指定都市

常任幹事の

任務分拍決まる

今年度は二十周年記念事業が中

心の一年となっていますが、全腎

協などの連携もたいせつな運動で

す。次のように全腎協運営委員等

が決まりました。

①全腎協運営委員・幹事(一ノ清

高橋勇二郎、柳、糸賀)

②関東ブロック代表(一ノ清)

③東難連(草間)

このほかに全腎協運営委員に小

林、栗原の両氏が推薦されています。

また、泉山会長が全腎協相談役に

なっています。

〈委員会による活動〉

①会員拡大・交流委員会(＊堀、

石川、岩本、榎本、軽部、川島、

小泉、谷地、竹田)

②教宣委員会(＊中田、糸賀、高

橋勇二郎、竹田、森、本間)

③腎疾患対策推進委員会(＊泉山、

一ノ清、柳、高橋政時、林田、

山田)

④編集委員会(＊草間、木村、井

上、金子、東野、吉田、加藤

小脇)

⑤婦人部準備委員会(＊石川、木

村、井上、岩本、林田)

そのほか今年度は二十周年記念

誌作成のため、二十周年記念誌編

集委員会(加藤委員長)が開かれ

ています。また青年部も新たに村

田部長を選出し、活動を進めてい

ます。

新入会員紹介

—— よろしく

今祐一郎、鈴木俊男、藤津直行、

上田ミヨ子、高倉文夫、新村正和、

山田登志子、小島芳一、小関幸子、

仙北谷美代子、愛田裕見子、小杉

温子、比留間俊江、筋沼千恵子、福

山玲子、栗林スミ、肥野千恵子、

佐藤昌子、浅岡正義、茨木克美、

上杉和彦、白井忠、屋敷子

海島腎友会

〒113 文京区本郷三一一一

順天堂医院 人工腎臓室内 (20人)

原稿募集

①体験的五分間クッキング

皆様のアイデア料理(六百字)

②一般投稿(八百字程度)

③私のふるさと(千二百字、写真

・今のものとの過去のもの)

〈編集後記〉

やっと編集が終わった。頭がボ

ーッとしていてあまり考えられな

いの残りが少なくてよかった。

しかしこれだけは言いたい「医療

福祉を悪くしないで！」(草間)

九行所 身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砥石6-26-21 頒備百円